MfG_J_Non-war non-nuclear history of Nagaoka city
長岡の非戦・非核の足跡、継之助・五十六・大學のストーリー

1. 長岡市　県内最初の「非核平和都市宣言」のまち
(1) 非核平和都市宣言
(2) 私の「戦争の語り部」としてのひとこと
2. 友情の双像の関連人物
(1) 以下は、みな武石弘三郎が作像
　竹山屯は戊辰の役当時、西園寺公望の越後戦線従軍侍医
　長谷川泰は戊辰の役当時、長岡藩軍医
　堀口久萬一とメキシコ大統領家族救出劇、山本五十六との縁
(2) 平和を祈る銅像
　長岡市平和の森公園の平和像、製作者は廣井吉之助さん
　武石弘三郎と峰村哲也さんの県内の銅像
　　長谷川泰像の製作者
　　戦前の像は武石弘三郎、戦後の像は峰村哲也さん
　　峰村哲也さんの代表作
　　新潟市西大畑の「良寛さん、遊ぼ」 ～貧しい民への慈悲
　　長岡市新組の「長谷川泰像」～　教育、そして医療を通じ、平和を希求
　　戦災史料館の「生きる」 ～　幼な子を抱く母の姿
　　考古堂刊・峰村剛編「長岡空襲　60人の証言」とともに
3. 堀口大學の、平和・反核にかかわる詩、数題
(1) 詩・現代史～平和への想い
(2) 詩・新春　人間に　～皆が原発新時代に浮かれた時代に原発への警鐘
(3) 長岡高校 第二校歌の改定の話
　1) 概要の紹介記事
　2) もとの長岡高校 第二校歌
　3) 現在の歌詞
　4) 改訂の経緯
　5) 大學のことば
　6) 時代背景
4. 戦災史跡
(1) 模擬原子爆弾投下地の碑 （左近町、永代橋付近）
(2) 長岡空襲爆撃中心点の碑（明治公園内）
(3) 長岡空襲殉難者の慰霊塔　（平潟神社）
(4) 平和像と被爆アオギリ二世の木(本町3　平和の森公園)
(5) 戦災殉難者之墓（四郎丸4、昌福寺）
(6) 大手通りのまいまいひめ

1．長岡市　県内最初の「非核平和都市宣言」のまち
(1)　非核平和都市宣言
「非核平和都市宣言市民の集い」として、毎年の8月1日の午前、
平和の森公園（本町3丁目）にて、「平和の誓い・平和祈願祭」が
長岡市非核平和都市推進実行委員会の主催で行われています。

長岡市　非核平和都市宣言

長岡市は、昭和20年8月1日の大空襲により、一夜にして多くの尊い
生命と財産を奪われた県内唯一の戦災都市である。
あの悪夢のような空襲から39年の歳月が流れた。この間、
長岡市は、市民の血のにじむような努力によって戦災の復興を
なし遂げ、今日の繁栄をもたらし、更に文化都市として大きく生まれ
変わろうとしている。
私たちは、私たちの先達から受け継いだこの貴重な財産を、次の
世代に引き継ぐ歴史的な使命を負っている。これを再び戦火に
さらすことは、絶対に許されない。
世界に戦禍の絶え間なく、核戦争さえ危惧されるなかにあって、
私たちは、今こそ被災地の悲惨な体験を強く訴え、戦災都市長岡
から平和の灯を広げていかなければならない。
そして、それが、戦災の犠牲となったかたがたのみたまに報いる道
であると信ずるものである。
よってここに、戦災復興40年を迎えるに当たり、非核三原則の遵守
と核兵器の廃絶を求め、世界の恒久平和維持への願いを込めて、
わが長岡市を「非核平和都市」とすることを宣言する。

長岡市
1984年8月1日

長岡市には、多くの戦災遺跡があり、訪れますと、感じることが多いです。
毎年の八月一日に、数々の場所で行なっている慰霊の集いは、それぞれに、
厳粛な気持ちになります。
そのなかで、ひとつだけ選びなさい、と問われたら、私は昌福寺の戦災殉難
者法要をあげたいと思います。
午前七時という早朝ですが、長岡駅にほど近い昌福寺で、長岡空襲犠牲者
を埋葬した戦災殉難者之墓の墓前にて執り行われるものです。

市内のお寺さんが30名ほど入場し、墓前に二列に並びます。
まず、ひとつの網の目の経文、帰依文、生活信条の唱和があり、続いて
最初に市長、続いて来賓数名のお参りの後、その年々の中学生数十名を
含め、一般市民参列者がお参りします。
その間、法華経、般若心経が唱えられます。二十分ほどで終了です。
　空襲の戦没者の方々の想い、その中の不明者の多くの遺骨埋葬を引き
受けた昌福寺さんの想い、長岡の仏教寺院が宗派を超えて慰霊法要を
行なう想い、そしてその法要に参加する行政と市民の想い、多くの想いが
集まっています。

(2)　私の「戦争の語り部」としてのひとこと
　私は戦後、日本が落ち着きを取り戻したころに生まれたので、直接経験
はなく、亡くなった父母が、別々の機会に語った「ひとこと」しか話せません。
　母は、「あの日の怖さを思い出すから」と言って、八月二日、三日の花火
を、信濃川の川面の見える土手で見るのを好みませんでした。
空襲の時、母は宮原の姉の家に疎開中で、左近の土手に向かって逃げた。
そうですが、その最中の光景でしょう。
　父は、私が学生時代、ロシア語の独学を始めたころ、一言だけ、戦争に
関する文句らしい話しをしました。
父は、終戦時、現在の中国・長春におり、同年暮れにソ連のウラルの西の、
マルシヤンスクに着。 二年の抑留の後、復員。 その間のことは一言も
語らなかった父が、唯一回、ソ連に関連した発言でした。
私は、父も母も、それぞれ言葉に言えない苦労をしてきたことを、私の祖母
や親戚から聴かされていましたが、二人とも、それらの苦労については、
一言も発することはありませんでした。それだけに、この「ひとこと」を
私は忘れることができません。

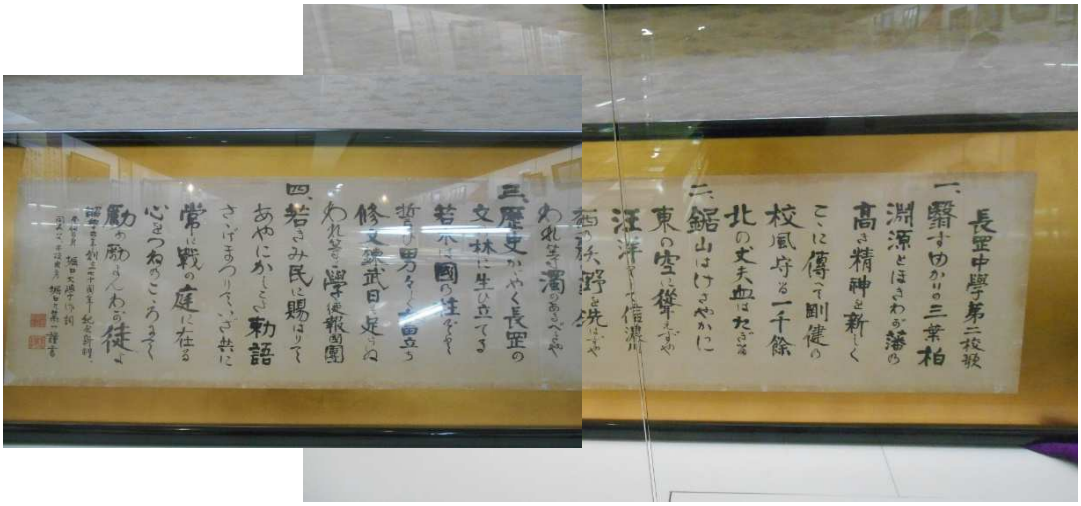
2. 友情の双像の関連人物

中之島長呂の若宮社に建つ武石貞松と堀口久萬一の「友情の双像」

左の写真の銅像の作者は篤志家・貞松の弟の弘三郎、中央写真の像脇石碑の撰文は外交官・久萬一の子息・大學によるもので、四人とも長岡で学んだ人物です。うち三人は殿町にあった漢学の誠意塾で学び、その塾の創立者は、新政府軍越後戦線の参謀役であった勤王家・高橋竹之介。越後戦線の旗頭が、後に明治の最後の元勲となる西園寺公望。そして久萬一がロシアとの競り合いの中、外交手腕でアルゼンチンからの購入に成功した巡洋艦を、その直後に投入したのが対ロシア・日本海海戦。それに乗船し負傷したのが、海軍兵学校を卒業したての五十六。さらに貞松もスゴイ人物で、この四人に縁のある人物を手繰っていくことで、ある程度長岡を語れるような気になります。

堀口大学、そして武石弘三郎は、それぞれ旧制長岡中学、誠意塾に学んでいるが、その後の両氏を世界に羽ばたかせたのは、父・堀口久萬一、長兄・武石貞松の友情による、有形無形の教育支援です。 まさに、堀口大学、そして武石弘三郎は、父・堀口久萬一長兄・武石貞松、のふたりがいなければ、大成しなかったのでは、と思います。

「友情の双像」
写真の
和服姿が
武石貞松、
洋服姿が
堀口久萬一



長岡中学第二校歌　作詞　堀口大學、　掲額　堀口久萬一謹書とある

3. 堀口大學の、平和・反核にかかわる詩、数題
(1) 詩・現代史～平和への想い

現代史　(昭和32刊　堀口大學)

開戦に陛下は反対あそばした
それでも戦は始まった
月ごとの八日　八日に集まって
日の丸立てて読みあげた
あの大詔は嘘だった

開戦に陛下は反対あそばした
それでも戦は始まった
若者は銃を担って出征って行った（でていった）
しこのみたてと気負い立ち
月ごとの八日　八日に集まって
日の丸立てて読みあげた
大詔のままに死んでった

大べら棒のとんちきの
将軍どもがでちあげた
大嘘つきのみことのり
御名御璽とは名ばかりの
あの開戦のみことのり

軍国日本三軍の
絶対無二の大元帥
陛下は反戦主義だった
千万人が傷ついた
百万人が帰らない
嘘のようだが本当です

「長岡文芸」に掲載前にされる前に廃刊となったため、
未掲載原稿となった。（長岡市立図書館）

長岡市内・長興寺の山本家のお墓の東側、堀口家のお墓の脇に、二段の掲示板が建てられている。下の掲示板が 「新春　人間に」。

この詩は、1970年昭和45年に書かれた詩で、翌年正月、
福島第一原子力発電所が稼働した年(1971年3月に1号機)の
産経新聞の1月1日号の特別版用に書かれた詩とのこと。

「新春　人間に」

分かち合え
譲り合え
そして武器を捨てよ
人間よ

君は原子炉に
太陽を飼いならした
君は見た　月の裏側
表面には降り立った
石までも持って帰った

君は科学の手で
神を殺すことが出来た
おかげで君が頼れるのは
君以外になくなった

君はいま立っている
二〇〇万年の進化の先端
宇宙の断崖に
君はいま立っている
存亡の岐れ目に

原爆をふところに
滅亡の怖れにわななきながら
信じられない自分自身に
おそれわななきながら…

人間よ
分かち合え
譲り合え
そして武器を捨てよ

いまがその決意の時だ

堀口大學

(3) 長岡高校 第二校歌の改定の話

1) 概要の紹介記事

ふるさと長岡の人びと (長岡市1998) p:

〈大學〉と長岡高等学校第二校歌

昭和三十二年（一九五七）五月十五日、大學は母校長岡高等学校に招かれ講話を行っている。そこで、大學という名を雅号だと思い込み厚顔不遜な名だと思う人もあるようだと前置きして、

「私にはどうも不似合で、迷惑な事もいろいろありました。まだ小学校に入ったばかりの頃、上級生に呼びつけられて、〈お前はまだ小学校に入ったばかりのくせに、大学とは何事だ〉。こんな風にして何回泣かされたかわかりません。三十歳を過きてから小石川にささやかな標札をあげましたが、ちょうど拓殖大学の通学路にあたって居りまして、学生が毎日前を通るのですが、新入生なんかは、田舎から出て来たばかりですから〈おい見ろよ、東京にはこんなちっぽけな大学があるんだなあ、これにくらべれば俺達の大学は立派だなあ……〉などという。腹が立つけれどもどうにも致し方ありません。時によると地方の図書館などから〈おたくの大学の出版物を寄贈して頂きたい〉などと言って来ます」

と、講話の導入部で笑わせて生徒の緊張感を和らげ、自身を語り、好む道を深めよと説いている。

講話の後、大學の作詞になる第二校歌を全校生徒で歌って聞いてもらったという。再度壇上に立った大學は「私がこの作品を作ってからもう二十年近くなります。それでいていま初めて聞くのです。……曲も立派ですね。ただ胸がつまって……有難う……。有難う……」と感激の言葉を残した（『和同会雑誌』第九十七号による）。

詩人八木忠栄はこのとき二年生、「詩人て凄いもんだ、と私はその姿に感動した」という。

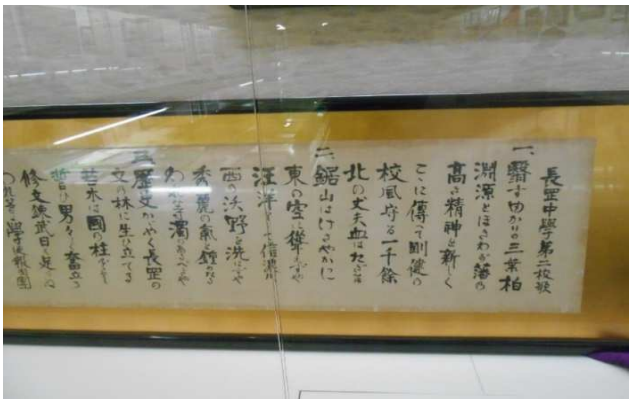
「翳すゆかりの三葉柏／淵源とほきわが藩の／高き精神を新しく…」と歌う第二校歌は、昭和十六年（一九四一）に制定され、二十六年には歌詞の一部が大學自身によって改められて長岡高等学校へと受け継がれている（土田陸夫『柏の杜』による）。

（吉岡　又司）

2) もとの長岡高校 第二校歌

作詞・原曲　堀口大學、作曲　深井史郎

昭和十六年(1941)十月二十三日の創立70周年記念事業のひとつとして、
その七月に大學が同窓会より、第二校歌の作詞の依頼を受け、作詞。
作成後、佐藤春夫氏にも批評を乞う。字脚や字句を正したのち、作曲には若い
作曲家を、と友に相談し、大學が旧知の深井史郎氏の名があがった。
作詞の経緯は、「堀口大學全集 七　Ⅶ身邉雑録」 p698-704　小澤書店(1983)
九月になってから「翳すゆかりの三葉柏」の言葉が浮かび、その後わずか
一か月の間に作詞・作曲が
なされたわけで、
おどろきである。



その歌詞は、父久萬一の
書による記念資料館
「額装の歌詞」にあるように、

改訂前の歌詞（赤が、後に改訂された部分）

一、
翳すゆかりの三葉柏
源淵とほきわが藩の
高き精神を新しく
ここに伝へて剛健の
校風守る一千余
北の丈夫血はたぎる

二、
鋸山はけざやかに
東の空に聳えずや
汪洋として信濃川
西の沃野を洗はずや
秀麗の気を鍾めたる
われ等濁りのあるべきや

三、
歴史かがやく長岡の
文の林に生ひたてる
若木は国の柱ぞと
誓ひ男々しく奮ひ立ち
修文錬武日も足らぬ
われ等よ学徒報国團

四、
若きみ民に賜はりて
あやにかしこき勅語
ささげまつりていざ共に
常に戦の庭に在る
心をつねのこころにて
励め励まん我が徒よ

3）現在の歌詞
しかし、現在の歌詞は、以下の通り。

第二校歌　昭和16年　創立70周年記念
作詞・原曲　堀口大學、作曲　深井史郎

一、
翳すゆかりの三葉柏
源淵とほきわが藩の
高き精神を新しく
ここに伝へて剛健の
校風守る一千余
北の丈夫血はたぎる

二、
鋸山はけざやかに
東の空に聳えずや
汪洋として信濃川
西の沃野を洗はずや
秀麗の気を鍾めたる
われ等濁りのあるべきや

三、
歴史かがやく長岡の
文の林に生ひたてる
若木は国の柱ぞと
誓ひ男々しく奮ひ立ち
智育体育日も足らぬ
われらよ自由民主の子

四、
若き命を誇りにて
行手はるけき日本の
平和の明日のいしずゑを
築く責務を双肩に
父祖の労苦を心にて
励め励まん我が徒よ

2016年2月12日　長岡高校記念資料館にて、和同会雑誌を見せていただき、
以下を確認した。（春日）

4） 現在の歌詞

第二校歌は、 昭和26年創立80周年に合わせて、改めた。
昭和26年復刊の　和同会雑誌96号 (創立80周年記念号)の第二校歌のページ(p196)に、
「昭和16年制定(作詞堀口大學氏、作曲深井史郎氏)のものを、
今回、原作詞者に請うて一部改訂していただいたもの」と付記し、
新しい第二校歌・歌詞を掲載してている。
しかし、そのように至った経緯の詳細は、同記念館でも、不明とのこと。

その次の記録としては、しばらく和同会雑誌休刊の後、再復刊の
和同会雑誌97号にて、堀口大學氏が、昭和三十二年五月の長岡高校での
講演のときの所感を述べている。
　　大學という名を、誤解されたことのほか、昨夜泊まった旅館の柱が太かったこと
　　などを述べ、皆さんも頑張るようにと、励ました。
その文末に、編集部の付記(昭和32年5月15日)がある。

母校での講演の後の全校生徒の第二校歌斉唱を聞き、
感激の言葉となったことへの、編集部の付記(昭和32年5月15日)として、

「氏の心に去来する母校への愛着と後輩への限りない信頼が、
星霜を移した感慨とともに、この言葉となったのではあるまいか。
一同、偉大なる先輩の話に直接触れる思いで、思わず頭を垂れた
のである。
今後、校歌を歌うに際し、この感動を胸に想起していきたいものである。」
と述べている。

昭和33年1月発行　和同会雑誌97号　「所感」

5） 大學のことば

a)　堀口大學　長岡高校講話 (1957)
昭和三十二年五月に、長岡高校で講演。
講演の中で、自分の作詞した第二校歌を一度も聞いたことがないという話を
されたらしい。
講演が終わるとともに、生徒全員から第二校歌が歌われた。
その時、大學さんは、感激し、言葉が出なかったという。
再度壇上に立った大學は「私がこの作品を作ってからもう二十年ちかくになります。
それでいていま初めて聞くのです。曲も立派ですね。
ただ胸が詰まって・・・ありがとう・・・ありがとう」
と、感謝の言葉を残したという。

b) 母校百年の石碑の碑文 (1972)

歴史を感じさせる煉瓦造りの門柱を入って右手に、大きな岩がある。
これは昭和四十七年に創立百年を記念して設置されたもので、
ここに大學自筆による詩「母校百年」が刻まれている。

来ては学んで巣立ちゆく
郷土の誇る俊秀を
不屈の意気に燃えつずけ
百年一日育て来た
名も長岡の高校よ
百の寿祝う学校よ
今日の目出度いこの祝賀
重ねてよ幾々度も
時空の限り

6) 時代背景

第二校歌が作詞された昭和十六年(1941)の夏は、日米開戦の真珠湾攻撃の数カ月前である。 山本五十六年譜から引用すると、以下のようである。

1927年 ジュネーブ軍縮会議
1930年 第一次ロンドン軍縮会議
1931年6月 (昭和6年) 満州事変
1933年3月 (昭和8年) 国際連盟脱退
1934(昭和9年)第二次ロンドン軍縮会議予備交渉 全権大使
1935(昭和10年) 阪之上、長岡中学で講演
和同会作成の講演録の送付原稿を手元に留め置く
1937年(昭和12年)7月7日に盧溝橋事件が勃発、日中戦争
1939年5月(昭和14年) 述志
1939年8月(昭和14年) 連合艦隊司令長官 39末 堀歿
1941年12月8日(昭和16年) 述志
1941年12月8日(昭和16年) 同日未明 真珠湾攻撃で、
日米が開戦。
1942年6月 ミッドウェー海戦
1942年8月から11月 ガダルカナルの戦い
1943年4月18日 ブーゲンビル島上空で襲撃された

4. 戦災史跡　長岡戦災資料館パンフより

(1)模擬原子爆弾投下地の碑 （左近町、永代橋付近）
1945（昭和20）年7月20日午前8時13分。左近町（当時は上範村大字左近）の畑に1発の爆弾が投下されました。
4人が一瞬にして生命を失い、5人のけが人が出るとともに、全壊2戸のほか、残り29戸のすべての家が大きな損傷を受けました。
そのとき投下された爆弾は、1945年8月9日に長崎に落とされた慶子港弾（ファットマン）とほぼ同型、同重量（約5トン）の、模擬原子爆弾（パンプキン爆弾）であったことが分かりました。本番前の投下訓練として長岡が選ばれ、津上製作所を目標としていましたが、誤って左近に投下されたことも分かりました。

（2） 柿川戦災殉難地の碑 （柳原町 柳原公園）
柿川戦災殉難地の碑は、柳原町の柳原公園内（柿川の丹波f橋側）にあります。碑の高さは約1m。空襲当時、153名の人々が亡くなった神明神社の境内だったところに碑は建っています。碑には「清き柿川の辺り柳原町神明社境内で昭和二十年八月一日夜、太平洋戦争に於て此の地に空爆死された犠牲者の冥福を祈り、命日五十回忌を期に哀悼の意を捧げる（後略）」と刻まれています。

(3)戦災戦災殉難者慰霊塔 （平潟神社）
戦災復興のまちづくりが進むにつれ、市民の間に、空襲で亡くなった人が268人と最も多かった平潟神社の境内に慰霊塔を建立しようという運動が始まりました。
1958（昭和33）年3月、市議会に「慰霊塔の建設補助請願」が提出されました。
そして、一般からの寄附と市及び県の補助金によって、同年11月に戦災殉難者慰霊塔が建設されました。慰霊塔には「このような不幸を再び繰り返さないよう願いをこめて」と刻まれています。その後、老朽化のため戦災50周年に当たる1995（平成7）年に修復し、現在地に移転しました。
～　最初は境内の東南、表町交差点の方角にあったと思う。

（4） 平和像と被爆アオギリ二世の木(本町3　平和の森公園)
公園は、灯籠流しの柿川岸にあり、公園内には、平和像、非核都市平和宣言の碑、広島から贈られたアオギリ二世の二本の木があります。
長岡空襲の犠牲者1，480余名の中には、280名あまりの学童が含まれていました。このいたいけな学童たちの霊を慰めるため、県教職員組合は全県下から寄附金を募り、集まったおよそ150万円をもとにこの平和像を制作しました。
慰霊と平和への限りない願いを込めて「平和像」と名づけられ、はじめ、1951（昭和26）年11月に長岡駅前広場に設置されました。 この辺は、私の小学校通学路の近くであり、道路の中央分離帯に満開の赤いサルビアと駅前の平和像を、なんとなく覚えています。

その後、この平和像は悠久山公園、明治公園と移転しましたが、1996（平成8）年
市民の平和への願いのシンボルとして新しく完成した平和の森公園に安住の地を得た。
平和像の中には、銅板に刻まれた「昭和二十年八月一日長岡市戦災学徒名簿」が
納められています。

被爆アオギリ二世の木
平和の森公園の整備趣旨に賛同された広島市から譲り受けたものです。
（説明銘板より）
親木のアオギリは、爆心地から北東1.3 kmにある中国郵政局の中庭で被爆
しました。爆心地側の幹半分が熱線と爆風により焼けてえぐられましたが、焦土
の中で青々と芽を吹き返し、このアオギリの種から育てられたのが、被爆アオギリ二世の木。
1996（平成8）年7月、二本のアオギリ二世が長岡に到着、広島県外の
譲り受け自治体以外では、長岡市が第一号とのこと。

毎年八月一日の朝九時から、、県教職員組合はと長岡市による慰霊式があり、
多くの市民が参加します。
また、その日の夜、公園が面している柿川岸て、長岡市による平和像への灯火の点火、
非核平和都市宣言市民の集い灯籠流しがあり、多くの市民が参加します。

長岡市Web

(5)戦災殉難者之墓（四郎丸4、昌福寺）
身寄りが分からない遺体は合同で荼毘に付されましたが、遺骨の埋葬場所はなかなか
見つかりませんでした。そうしたなかで、四郎丸の昌福寺が埋葬場所の提供を快く引き
受けてくれることとなり、1945（昭和20）年9月に遺骨はようやく埋葬されました。
そして、1947（昭和22）年9月には、市民の寄附により墓碑が建立されました。
墓の正面には「戦災殉難者之墓」、裏面には「昭和二十年日当市戦災　殉難者
市長他千百四十名　茲に有志相図り全市民の浄財を以て永く菩提を弔う」と
刻まれています。毎年八月一日朝七時から、長岡仏教会と長岡市による慰霊法要が
営まれ、多くの市民が参加します。

総務省Web

(6) 大手通りのまいまいひめ

昭和20年8月1日の夜長岡は空襲で焼野が原になり、多くの市民が犠牲になりました。
中でも被害が集中したのは、この像のある表町・本町・上田町地区でした。
そこで、2度と戦争をしないようにとの願いを込めて、「平和像」がこの場所に建てられた。
ところが昭和30年代になると復興が進み大手通もにぎやかになりました。戦災復興都市であることを、よりアピールしようということになり、平和像は駅前に移転することになりました。
その時、今まであった場所の方では、盗られてしまうような被害者意識から、平和像の代わりを求める声が上がり、昭和33年にこの「まいまいひめ」像が建てられたということです。
最初は、今の町口御門ビル・以前の「パンのうちやま」と、向かいの「紅屋重正」に挟まれた、変則交差点の中心にあったグリーンベルトの中に立っていました。
「まいまいひめ」は、市内の彫刻家、広井吉乃助さんの作。

「著名人は継之助、岩村精一郎のみにあらず」　　[C] 春日
戊辰の役・西軍と長岡軍と、その後の関係人物の逸話

人物	関連する人物	関連する人物・場所	銅像・石碑、その他
山縣有朋		有朋隊の本陣 神田三丁目	
西園寺公望			供出銅像 石膏像レリーフ(現存)（京都
	星野嘉保子	長岡女子教育	供出銅像と 復元ブロンズ像 (草生津)
高橋竹之介	堀口久萬一 武石貞松		久萬一、貞松の ブロンズ像
		大學、弘三郎	(友情の双像) 中之島
竹山屯 公望の従軍侍医		竹山病院 池原康造	大理石像(新大旭町キャンパス) ブロンズ像（ 同 ）
継之助	三島億二郎 岸宇吉 長男・吉松 （きちまつ）		竹之介、億二郎追悼会に 哀悼の長句
		山本五十六 久萬一ゆかりの日進に乗船で負傷	山本記念館に写真
長谷川泰 長岡藩軍医		東京・済生学舎	供出銅像と 新作ブロンズ像 (北越伝承館前に峰村氏作) 大村智さん
	久須美秀三郎 久須美東馬		ブロンズ像（小島谷駅前） ブロンズ像（弥彦公園）
	山口権三郎 実業拡大	長岡実業学校創立	
	山田又七 工学教育	長岡高等工業誘致	供出銅像 令終会の碑
	山口権三郎の弟の野本恭八郎	互尊文庫	

・山縣有朋の歌碑（西軍上陸の地(中島)、不動院(見附市)）
　"あだ守る砦のかがり影ふけて 夏も身にしむ越の山風"
　山縣の宿舎は神田三丁目、江戸時代から続く薬種商家の小村屋

・西園寺公望 公望の悠久山の碑の「以成粛雍之徳」と解釈 星野嘉保子　供出銅像　+ 復元銅像 越後戦線の従軍侍医　　竹山屯の大理石像 新大旭町キャンパス内の武石弘三郎作・大理石像、銅像の位置
・高橋竹之介　越後戦線の参謀代理的役目（辞令は「隠密を命ずる」） 中越地図 高橋竹之介の誠意塾設立の経緯 弟子のうちの二人　、堀口久萬一、武石貞松の「友情の双像」 久萬一の巡洋艦争奪の外交交渉 日本艦隊、日進の配置と、　五十六乗船、海戦で重傷 武石貞松の地元への功績 高橋竹之介は明治30年、政府有力者の山県有朋、松方正義の両者にあて「北陸治水策」と題した建白書を提出、建設の必要性を訴えた。
・長谷川泰　　長岡藩軍医として、最期まで継之助のそば 長谷川泰供出銅像 新作の銅像(峰村哲也さん作)と、建設賛同者名簿に大村智さんの名
・長岡の復興、三島億二郎と岸宇吉、久須美父子 三島億二郎銅像（元井達夫さん作） 竹之介、億二郎追悼会に　哀悼の長句 宇吉の長男・吉松と五十六が並んでいる写真 日本艦隊、日進の配置 久須美秀三郎、久須美東馬のブロンズ像 住雲園、弥彦公園 和島と言えば良寛　～越後屈指の漢学塾長善館・創始者の文臺を見出し 新潟市西大二畑に峰村さん作の「良寛さん、あそぼ」のブロンズ像
・長善館の卒業生 高橋竹之介、竹山屯、長谷川泰、・・・、長岡からも大勢入学 ～　江戸期、長善館の粟生津は、今井家の燕と同じく、長岡藩(巻組)
・オイルシティ長岡を創った二人、山口権三郎と山田又七 山口権三郎の歌詞　　機械工業への拡大への想い 日本石油付属鉄工所、のちの新潟鐵工所の石油産業拡大産業製品開発 山田又七供出銅像と工学教育への想い 長岡高等工業の航空写真 オイルシティの遠因　　フォッサマグナと東西圧縮 信濃川の河道変遷